

生活・福祉・教育の大改善を許すな!

札幌共同連絡センター通信

http://www.sapporo-syahokyo.jp/syaho_kyodo.htm

2007年1月30日

第21号

事務局:札幌社保協内

電話:823-0867

FAX:821-3701

E-mail:

s-syaho@kin-ikyo.or.jp

家庭ごみ有料化は必要条件ですか?

札幌廃棄物減量等推進審議会 1/29公聴会

1月29日、「札幌市廃棄物減量等推進審議会」の公聴会が開催され、「中間とりまとめ」についての審議会会長からの説明と、意見公述が行なわれました。意見陳述では、コンビニ業者、商店主、町内会長（南区・手稲区）、賃貸住宅業者等がそれぞれのゴミ対策、減量活動について経験を述べました。それぞれの経験はなかなか良いものでした。以下、家庭ごみ有料化に絞ってお知らせします。

指定公述の町内会長さんは「大型ゴミ有料化の時には不法投棄が増えた。地域は山林や空き地が目立つため、未だに散見される。対策委員会を設けて巡回やノボリを立てる、町内で年1回のパレードなどを行っている。家庭ごみが有料化になると、不法投棄が増える可能性があり、心配だ」と述べていました。

公募の公述人は有料化に賛成・反対の方が2人ずつでした。

1人目の方は「有料化には基本的に賛成だが、回収方法の多様化などの準備が整ってから行なうべきである。そうでないと不適正排出が起きる。また、一定期間がたつとリバウンド現象でまたゴミが増える。資源ごみは無料にした方が効果が大きい。」と述べました。

2人目の方は、「市民意見交換会の内容が反映されていないのではないかと。有料化は賛否が半々だった。中間まとめは有料化ありきである。不法投棄が増える可能性がある。町内会としては対応できないし、しない。」と述べました。

山根泰子さんは、家庭でのごみ減量・リサイクル対策を実物で示した後、「事業所ゴミが細かく分類されていないのは問題、家庭ごみ分類の努力に習うべきだ。ゴミ問題は町内会の努力抜きには解決しない。ゴミの楽しい減量を考え、強制ではダメ。街のコミュニケーションを作ることが重要。ゴミの減量に熱心な層2割、普通が6割、不熱心な層2割と言われるが、有料化は働きかけで熱心になりうる普通の層まで含めて負担をかけることになり、ゴミ問題の解決にはならない。拡大生産者責任を明確にした取り組みが必要。」と述べました。

4人目の方は「①ゴミ有料化をすみやかにすべき、②買い物のレジ袋を有料にすべき、③ごみプラン21は基本的に賛成」と主張。家庭ごみの有料化は①ゴミを減らせる、②考える材料になる、③清掃局のコストを減らせる、④収入で今の費用を他に回せると説明。アンケート調査を紹介し、レジ袋有料化にすると93%がマイバッグになる、有料化にしたら「少し減らす」「たくさん減らす」と答えているのが83%と述べました。

【考えてみましょう】

審議会会長が「ゴミの有料化は資源化を推進し、ゴミを減量する『動機付け』で、行政の収入を確保するためではない」と1/27のシンポでも言っていたようですが、04年に出された「財政構造改革プラン」では、受益者負担の適正化のひとつに、「ごみ処分手数料（家庭）」経費の3分の1負担として、14億円が効果額として計上されていました。会長の思惑がどうであるかは別として、市側の意図は明白です。

1人目の公募公述人も含めて、有料化の前に必要なことをやるべきであるという意見が多く、ゴミの有料化で不法投棄、不適正排出の増大を懸念している人も多くいました。中間まとめでも「拡大生産者責任」を述べているのですから、その立場で徹底すべきでしょう。自治体が企業に枠をはめられる範囲は小さいかもしれませんが、市内の小売業者関係とは話し合えるはず。また、資源ごみの徹底した分別は啓蒙・宣伝が鍵でしょう。

アンケートを紹介した公述人が「有料化でゴミを減らすと83%が答えている」と言っていますが、有料化になればほとんどの人がそう答えるのは当然です。問題はどうか減らすかです。買うものを少なくして減らすのか、家で燃やす、不法投棄をして減らすのか、ということを考えなければなりません。日常生活に必要なものが変わらないのであれば、物理的にゴミが減ることはないからです。

「動機付け」という言い方で有料化を考えるのは、人間を他の動物並みに考えていることで、「痛み」を与えれば考えるだろう、やめるだろう、という発想です。そこからは人間の信頼関係や、豊かな発想、創意工夫は出てきません。

